

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	14736000649	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	株式会社 木下の介護			
事業所名	木下の介護 グループホーム泉			
所在地	(〒245-0016 ) 神奈川県横浜市泉区和泉町3285-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	27 名	
		ユニット数	3 ユニット	
自己評価作成日	平成27年3月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年10月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者お一人おひとりの個性・尊厳・生命を守り、活力ある生活を支え寄り添うようなケアを目指し、入居者の希望を汲み取りながら、散歩・外出・外食・家事手伝い・歌や園芸・作品作り等を取り入れた生活リハビリを行っております。また、出来る事柄を大切に、出来る限り自身で行って頂けるようお願いをしております。また、住み慣れた環境で未永く過ごして頂けるようにも配慮をしております。</p> <p>年4回の運営懇談会後の食事会では、収穫した野菜でカレーパーティーやさつま芋掘り、バーベキューなど工夫を凝らした企画で、ご家族と一緒に過ごす機会を設けております。ほか桜花見や納涼祭、収穫祭など四季折々の行事も行っております。毎月1回の音楽療法、習字教室、尺八ミニコンサート、収穫祭、クリスマス会等で地域ボランティアさんの協力も得ながら運営を行っております。マイクロバスを使用して年1回『遠足』を行い、横浜コスモワールドにて観覧車に乗ったり、山下公園を散策したりと今後も様々な企画をおこなって参ります。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月26日	評価機関 評価決定日	平成27年7月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、相鉄線いずみ中央駅より徒歩で約7分の場所にある。周囲には住宅地や畑があり静かな環境である。鉄筋コンクリート3階建てで、3ユニットのグループホームとして平成15年に開設された。アイランド型のキッチンを備えたリビングをはじめ、全体的にゆったりとした間取りで設計され、共用部分の各所に季節の生花や利用者の作品が飾られている。正面玄関には、子供たちにも気軽に立ち寄ってもらえるよう、季節の飾りつけとともに関連法人が出資しているアニメ映画のポスターを掲示している。すぐ近くには同法人の有料老人ホームがあり、行事や防災訓練などで連携している。</p> <p><b>【サービス向上のための意欲的な取り組み】</b> 26年度、同法人である有料老人ホームから新たな管理者を迎えた。これまでの「グループホーム泉」をよく知る職員や利用者家族との関係を築き、協力しながら、よりよいサービスを提供できるよう、様々な取り組みを進めてきた。例として、法人内の全体会議とは別に、法人内グループホームだけの会議を発案し、情報共有や交流を進めた。また、利用者の要介護度が上がり外出が難しくなった状況を改善するため、法人所有の車やマイクロバスを活用することで、外出の機会を増やすことができた。27年度に向けて、地域との交流がさらに深まるよう、引き続き様々な企画を進めている。</p> <p><b>【家族の積極的な協力体制】</b> 運営懇談会（家族会）はイベントと合わせて年4回開催され、多くの家族が参加している。収穫祭などの事業所行事の準備や、事業所の家庭菜園の手入れ、また面会等で立ち寄った際にはキッチンをさりげなく手伝ってもらうなど、協力を得ている。事業所からは、写真入りでホームの日常の様子や行事予定を載せた「絆だより」をおおむね隔月ペースで発行しているほか、居室担当職員が書く利用者個別の近況報告と健康チェック表を送ることで、なかなか来所できない家族にも、安心感をもってもらえるよう努めている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	木下の介護 グループホーム泉
ユニット名	管理者(全体)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を各フロアへ掲示し、理念に基づきケアを行うように心掛けている。朝礼や会議時等を利用して共有化に努めている。	事業所開設時に作成された理念と、法人としての理念があり、26年度からは法人理念である『木下の介護は「幸せ」をつくりだす』に統一された。「入居者・家族・近所の方々・職員」4つの幸せを実現するための5つの方法が掲げられている。日頃のケアの方法を見直したり行事を企画する際には、理念に基づいているかを会議等で確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの受入を昨年より増やし交流を図っている。また、町内会へ加入。地域行事に参加したり、お店を利用したりしている。	町内会に加入し、資源ごみ回収に協力したり、地域の行事に参加したりしている。26年度から、地域の祭りの時には事業所前に神輿が立ち寄ってもらえることになっていたが、雨天のため実現できなかった。27年度以降も引き続き予定をしている。事業所が主催した収穫際には家族や近隣の方々が多数訪れ、盛況だった。習字、歌の会、川柳などのボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	啓蒙活動までには至らないが、見学者や問合せ者、ボランティア、運営推進会議等で理解や支援方法、アドバイス等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや状況報告を行いながら、ご意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、隔月で定期的に行われている。26年度は管理者をはじめ、民生委員や町内会長などのメンバー交代もあり、心機一転の年となった。活動状況報告を行い、地域の情報や防災対策などが話題に挙がった。事業所から、「グループホームとはどんなところか」を近隣住民にもっと知ってもらえるよう、参加者に協力を依頼した。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の報告、入居受入や住所変更、価格変更等の相談や報告。ほか、価格変更時は横浜市役所担当と相談から手続きまでを行った。横浜GH連絡会加入。情報交換や交換研修も行う。</p>	<p>地域包括支援センターとの関わりが主になっている。市や区の担当者に介護保険に関連する手続き等の相談をしたり、感染症対策など研修に参加している。横浜高齢者グループホーム連絡会に加入し、情報交換を行っている。</p>	
---	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不審者の侵入防止のため、玄関のみオートロックの施錠を行っている。施設内全体会議のなかで勉強会を行い、理解し取り組んでいる。外部研修に参加。	職員は毎年、定期的に研修を受け、管理者やフロアリーダーは日頃から職員の気になった言動があった場合には、その場で注意をするようにしている。玄関は防犯のため施錠しているが、各階のフロア入口は施錠せず、引き戸上部に取り付けた鈴で人の出入りを確認できるようにしている。エレベーターにも電子ロック等はなく利用者は各階の移動が自由に行える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の芽チェックシートを配布し、再認識に努めている。また、ホーム全体会議のなかで、言葉や薬の抑制にも注意するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は家族からの相談時に説明や紹介をすることがある。職員の理解と活用は乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や契約時、運営懇談会時ほか、その都度質問や疑問を伺い、説明を行いながらご理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営懇談会、アンケート等でご意見やご要望を伺う機会を設けている。可能な事柄から改善に努めている。	運営懇談会（家族会）はイベントと合わせて年に4回開催し、多くの家族が参加している。26年度は主に外出行事を増やすことを重点とし、行事内容の提案やイベント後の感想などが多く挙がった。法人として年に1回アンケートを実施し、本社で事業所ごとに集計している。何か意見が挙がった場合は、その都度検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議のほか、日頃より話しやすい雰囲気作り、いつでも相談出来るように努めている。GH管理者会議や代表巡回時にも提案の機会がある。可能な事柄は反映されている。	職員からの意見や提案は、各フロア会議の中で挙がっている。口腔体操の内容やラジオ体操についての提案などがあり、実行している。法人の代表は自ら各事業所を訪問し、職員に直接、意見を聞いている。提案の1つであった事業所の外観をクリスマスイルミネーションで飾る計画は実現された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	GH管理者会議や巡回時に状況を把握し、向上心へ繋がるような助言を頂く。管理者は働きやすい職場環境作りに努め、役割を分担して、遣り甲斐へ繋がる様に試みている。希望者は面接を行い、雇用変更が出来るように推薦を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、施設内勉強会、社外研修の機会を設けている。入職時のOJT、ほか自社で介護職員養成講座を開講しており、働きながら受講することも可能となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	神奈川県や横浜市のグループホーム協会へ加入しており、連絡会や講演、研修等を通じて交流や学ぶ機会があり、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談の際、本人の状況や要望、困りごと等を伺うようにしている。入居後は面談に基づいたケアを行い、また職員より声掛けを多く持ち、安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問合せや見学時等でご家族の思いや困りごと、要望等を伺い、サービス内容や説明を行いながら安心して頂けるように努めている。入居後はご様子報告や都度相談を承っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問合せや見学、面談時等で当施設サービスを説明しながら必要なサービスを確認し、提供可能か否かを判断する。提供不可やニーズに合っていない場合は、他サービスの紹介を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は出来る限り一緒にお茶や食事、レク、家事等を一緒に行い過ごしながら関係を築いている。共に寄り添うような支援が行える様にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康と生活の様子を手紙にして伝えている。来訪や電話の際にも近況報告を行っている。家族も一緒に参加出来る行事を通じて、三者の関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人の方々が自由に来訪面会され、希望により一緒に外出や外泊も可能となっている為、必要時には準備や助言を行い備える。	家族や友人が来訪した際は、利用者との関係がスムーズになるよう、一緒に外出することを提案したり、職員が間に入ったりして利用者との関わりをサポートしている。利用者の希望に合わせて、電話をかけたり年賀状を書く支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、家事手伝い、レク時に職員を介しながら一緒に過ごし、コミュニケーションが出来るように努めている。ご入居者同士で話や作業を一緒にされている姿が見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、家族や知人より相談を頂いた場合、必要に応じて出来る限りの対応に努めております。又、退去の際にはご案内等が可能かも確認して、イベントのお誘いを行う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、希望や意向を本人へ伺っている。また、家族と相談しながら検討。ほか、表情や行動を見ながら察し、把握に努めている。	普段の会話や様子、個々の習慣、家族からの情報などから、本人の思いをくみ取っている。意向の把握が困難な方は、アプローチの方法を変えて、表情や動作の違い、癖などから、その人が何を望んでいるのかを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人面談を行い、現在に至るまでの生い立ち、趣味、施行、週刊等を伺い、入居後もこれまでの生活が継続出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の会話、摂取や排泄状況、入浴、レク、家事手伝い、健康チェック等より現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は本人や家族、医師からの意見や要望を参考に、ユニット会議等で個々の課題やケアについて意見交換を行い、反映させている。	利用開始時には、アセスメントをもとに暫定プランを作成し、一定期間様子を見てから介護計画を作成している。ユニット会議で居室担当からの意見を参考に、個別ケアの方法や課題について話し合っている。モニタリングは毎月行い、計画は通常6か月毎、状況によりその都度、見直しを行っている。本人や家族には日頃から希望を聞き、家族の来訪時に計画の内容を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調や行動変化、対応変更の時には、個人記録や日誌へ記載し情報共有。また、ユニット会議時に話し合い、見直しや次の対応に反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	タクシー手配、通院代行、住所変更手続き一部代行、生活保護受入施設探しと見学、移動引越手伝い、医療行為可能施設探しと提案、来訪中家族の事故対応、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得ながら歌の会、習字、尺八ミニコンサート、生け花、季節イベントを開催し豊かな暮らしを支援。また、近隣の店へ買物に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により、定期的に訪問診療が受けられる。24時間オンコール、臨時往診、外来紹介、夜間でも安心して相談指示が仰げるようになっている。	入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいるが、ほとんどの利用者は協力医の往診を受けている。訪問診療は原則月2回だが、協力医は月に10～15日位来訪しているので、体調に不安のある時などは受診できる。24時間連絡可能で、必要に応じて往診を受けられる体制もある。訪問歯科は週1回あり、口腔ケア指導も行っている。また、年に1回は全員検診を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の看護師へ日頃の状況伝達、相談を行っており、個別の処置やアドバイスを貰うことが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医より紹介状の提供。入院時、職員より病院看護師へ情報提供を行う。退院見込時、状況確認のうえ、受け入れ態勢を整え、退院連携にも努めている。協力病院との連携も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に入居条件を説明している。現状ではターミナルは行わない方針。家族の希望を伺いながら、相応しいと思われる移動先を提案して行く。	事業所として、現状はターミナルケアを行わない方針であり、現状では職員研修も含め、まだ体制は整ってはいない。利用開始前に本人や家族に説明し、了承を得ている。希望により出来るだけ長く、ホームでの生活ができるよう、個々の状況に合わせて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の研修に参加。また、迷わずに対応が行えるようにフローチャートを作成し、説明を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法の説明と訓練を行っている。泉区の研修会にも参加。近隣に当社有料老人ホームがあり、協力体制をとっている。泉区内の福祉施設の協力体制もある。	今年度は6月と11月に、自主防災訓練と同法人の有料老人ホームとの合同訓練を夜間想定で実施した。消防署主催の研修や地域の防災訓練などには職員が参加している。備蓄としては、約3日分の食料と水、リネン類、備品を建物内外の物置に備えている。非常時に約30分使用可能な自家発電機があり、スプリンクラーも設置済みである。	3ユニットで利用者の介護度も高くなってきている状況を踏まえ、避難訓練の内容を工夫することが望まれます。備蓄も利用者の分だけでなく、できれば多めに準備できるよう保管場所などを検討することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム全体会議のなかで勉強会を行い、周知に努めている。また、気になる度にユニット会議やホーム全体会議のなかで説明を行っている。認知症の理解と共に、言葉遣いや声のトーンにも配慮に努めている。	プライバシーや接遇研修は、年1回、定期的に行っているほか、普段から事例などを用いフロア会議等でも話し合っている。特に排泄時の失敗があった時の対応や、利用者同士の関係に気を配り、その人に合わせた声掛けや対応を職員間で情報共有し、気持ちよく過ごせるよう努めている。記録や申し送りの際は、個人が特定できないよう、番号で表記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、意思決定が出来るように声掛けの工夫に努めている。また、要望が尊重出来るようにも支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や役割等を決めてはいるが、その時の状態や気分が無理はさせず、本人希望を大切にしている。出来る事柄はお願いし、本人らしく過ごせるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容が来ており、希望者はカットのほかにも毛染め等も行える。外出時は好みの服装で出掛けられるように支援をしている。納涼祭時、希望者には浴衣に化粧を行い喜ばれた。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好きな物、嫌いな物を伺い、食事提供時に配慮をしている。外食や行事の際、希望の食べ物を提供。また、旬の食材や果物等季節を感じてもらえるようにも工夫をしている。出来る方は、調理や片付けを行う。	宅配業者からの食材を、職員が調理している。基本メニューを基に、家庭菜園で採れた野菜や果物をプラスするなど、各フロアでアレンジすることもある。理念の一つでもある「食」を重視し、お米は精米したてのものをミネラルウォーターで炊いている。希望のメニューを手作りしたり、出前や外食の日を設けたりするなど、フロアごとに利用者の希望に合わせて楽しめるようにしている。	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者を利用し、栄養とカロリーバランスに配慮している。個々の摂取状態に合わせ、食事や水分量、形態等を調整し、また提供方法も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせた方法でケアを行っている。夜間は義歯洗浄を行う。ほか、毎週訪問歯科が来設し、希望者は治療や口腔ケアが受けられる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導、排泄チェックを行う。入居者の表情やしぐさから察して声掛け誘導を行う。場所が分からなくなり、放尿や放便の方には居室内にPトイレを設置し、減少したケースがある。	トイレは各フロアに3か所ずつあり、その内2か所はリビングからは見えにくいので、介助の際もプライバシーが保たれる。場所がわからず混乱してしまう方には、使用する場所を1か所に固定し、その方の名前をわかりやすいように表示したり、居室にポータブルトイレを置いたりして、失敗が少なくなるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の食べ物を食事やおやつ時に提供。ラジオ体操や散歩等で適度な運動も促している。便秘が続く場合は往診医へ相談し、処方服用を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	主な時間帯は決まっているが、臨機応変に対応をしている。基本は週2回とし、希望者は考慮をしている。また、入浴が苦手な方には、その方のタイミングで朝や就寝前に行くこともある。	利用者は、ほぼ週2回のペースで入浴している。時間帯は基本的に午後だが、入浴したくない方には、無理強いせず、対応する職員や時間を変えるなど個々に合わせて対応している。季節の湯や入浴剤を使い、気持ちよく入浴できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣、本人希望を尊重しながら自由に休息がとれるように支援をしている。また、季節に合わせ、室温や布団調整を行い、安眠できるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より薬情を頂いており、全職員が用法、用量、効果、副作用等について理解し、いつでも確認が出来るようになっている。薬の変更時は症状変化を観察し、医師と薬剤師へ報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、特技を考慮し、家事や趣味活動等で出来る事柄をお願いし、張り合い、喜び、自信、存在価値、気分転換や精神安定に繋げ、本人らしく過ごせるように支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑仕事、ゴミ捨て、近隣散歩、買物など希望を伺いながら屋外活動を行っている。また、盆踊りや地域行事にも参加をしている。	天気のいい日には、畑作業に出たり、富士山が見える場所まで散歩したりしている。外出を好まない方や難しい場合には、玄関前の庭で外気浴をすることもある。特に26年度は外出行事を増やすことを目標とし、家族の協力のもと「横浜コスモワールド」へ出かけた。車いすの方も観覧車に乗り、一望する「みなとみらい」の景色を満喫できたと好評であった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失トラブルを避けるため、基本的には施設内での金銭所持は禁止となっている。購入希望時は一時立替で対応。買物時には支払を入居者に頼み、見守ることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をすることは出来ないが、職員に依頼することで、職員が電話を繋ぎ、家族や知人と自由に話ができるようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように、入居者と作った作品展示や飾り付けを各フロア内や入口ホールで行っている。ほか、イベント時の写真も掲示している。	リビングは南向きの窓からの採光がよく、アロマの加湿空気清浄機などで湿度や臭いに配慮している。キッチンアイランド型となっており、職員が台所仕事をしながらも利用者とのコミュニケーションがとりやすい。室内装飾は季節毎に、各フロアの職員がそれぞれに工夫しながら行っている。訪問時には、富士山や桜をモチーフにした大型作品や針仕事の得意な利用者で作った和風小物などで、春らしい飾り付けがされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアの廊下にくつろげるソファを置き、自由に利用出来るようになっている。居間のテーブル席は入居者同士を考慮しながら席を決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にされていた品物を持ち込まれ飾られている。仏壇や写真、自作品をお部屋に置かれている方がいる。	居室は各階とも、リビングに隣接して5室、廊下側に4室配置され、それぞれにデザインされた表札がかけられている。利用者は小机や書籍、ぬいぐるみなど、好みの物を持ち込んでいる。ベッドや家具は、自宅の部屋と似た配置になるよう配慮している。備え付けの洗面台は一般の物より幅広で、生花を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分には手すりが設けられ、つかまりながら安心して歩行ができるようになっている。トイレ表示の工夫も行っている。		

# 目標達成計画

事業所名 木下の介護グループホーム泉

作成日 H27年7月31日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	災害対策の面において、地域や入居者の参加型訓練が密に行えていない状況有。周辺住民や町内会への周知を行い協力体制の構築が課題となる。	入居者参加型の避難訓練の強化を行い、まず自施設内の改善を行う。又、引き続き町内会との連携をはなり周辺住民の参加を促していく。	避難訓練計画の見直し。推進会議や町内会の会合への参加を行い手案をする。	12か月
2	33				
3	2				
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。